

## 北九州市とタイ・チェンマイ市の協働事業

シンガポール事務所

2011 年 1 月 19 日（水）、北九州市とタイ・チェンマイ市が協働で実施する「タイ王国地方自治体における環境保護と観光産業振興の両立を目指す政策立案能力向上のための人材育成事業」の成果発表セミナーが、チェンマイ市で開催されました。同事業は、都市化と昼間人口の増加によって悪化したチェンマイ市の環境改善を目的として、当協会の「自治体国際協力促進事業（以下、モデル事業という）(注)」を活用し実施されたものです。今回、当事務所では成果発表セミナーに参加する機会を得たので、その概要について報告します。

チェンマイ市内には現在、約 14 万人が暮らしていますが、その長い歴史や伝統に加え、恵まれた自然環境のおかげで、一年を通じて国内外から多くの観光客が訪れます。また、最近ではタイ政府の長期滞在（ロングステイ）推進計画、病院・スパ等の健康関連施設の整備計画により中高年の長期滞在型旅行者の数も増加しています。その結果、一日あたり 320 トン以上のごみが排出され、その処理費用は同市財政の 15% を占めています。このような状況において、観光産業振興と環境保護の両立を目指すためにどのような改善策を図ることができるか、また、その改善策をいかに市民や観光客に効果的に周知していくかという啓発方法について、現地視察や関係機関への聞き取り等を行いながら、北九州市とチェンマイ市とが協働で検討を行いました。

チェンマイ市財政の 15% を占める廃棄物処理費用のうち、49% をごみ収集コストが占めている。これは、各家庭から毎日ごみを収集し、市内から 100km 以上離れた最終処分場まで運搬するという非効率的な収集方法に依るところが大きいです。また、ごみの減量化に対する住民の意識が低く、分別やリサイクルといった発想も十分に根付いていません。背景には、同市では各家庭が出すごみの量にかかわらず、廃棄物処理費用を全家庭から一律に徴収しているため、住民の間でごみ減量化の意識が芽生えにくいという現状があります。

こうした状況を踏まえ、成果発表セミナーにおいて北九州市は、ごみの分別やリサイクルの必要性を訴えると同時に、効率的なごみ処理の運営方法についても提言を行いました。具体的には、ごみを分別して有価物を換価する、ごみ減量を呼びかける啓発ビデオを観光客向けに多言語で制作する、ごみの毎日収集を隔日収集に変え、ごみを数日間、家庭で保管する習慣をつ



チェンマイ市長（左から 4 番目）とセミナー発表者

ける、等々といったものでした。各家庭から一律に徴収されている廃棄物処理費用についても見直しを行い、例えば日本のごみ袋を有料化するなど、出すごみの量に従った負担にすることも検討する必要があるとの提言がなされました。これに対し、セミナー参加者からは、ごみの隔日収集の方法や、医療系廃棄物の処理方法、プラスチックごみのリサイクル方法等について質問が出され、活発な質疑応答がなされました。

今回のセミナーでは、チェンマイ市長をはじめ、行政関係者、観光産業関係者、NPO等が一堂に会し、北九州市の過去の経験を学びながら、それぞれの取組みの紹介を行いました。これまであまり無かった、官民を越えた各組織間の横の繋がりが生まれ、各々が連携しながら環境改善に向けた取組みを行っていく必要があるとの認識を新たに作るきっかけになったように感じます。

観光産業振興と環境保護の両立を目指すチェンマイ市の取組みは、タイ国内の他の自治体にとっても先進的なものとなるでしょう。住民の意識や習慣を変えるには時間と労力が必要ですが、粘り強い働きかけと対話によって、環境改善の活動が少しずつ広まっていくことを願っています。

(2011年1月19日 チェンマイ出張時間聞き取り等)

(中村所長補佐 宮崎県派遣)

(注) 自治体国際化協会(CLAIR)の事業

自治体の国際施策が「交流から協力へ」とステップアップすることを促進するため、自治体等が行う国際協力事業の中から先駆的な役割を果たす事業を積極的に認定し、財政的に支援するとともに、これらの活動を広く紹介し、地方自治体の国際協力への取り組みを促進しています。

■自治体国際協力促進事業の紹介ページ

<http://www.clair.or.jp/j/cooperation/model/index.html>

■お問い合わせ先

経済交流課 TEL : 03-5213-1726